

令和 4 年 5 月 18 日現在

機関番号：33929

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02330

研究課題名（和文）愛知県尾張地方の仏像に関する総合的研究 中央との関係と地域性

研究課題名（英文）Comprehensive research on Buddhist statues in the Owari region of Aichi prefecture

研究代表者

高橋 佳代（小野佳代）（Takahashi(Ono), Kayo）

東海学園大学・人文学部・教授

研究者番号：60386563

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、愛知県の中でも尾張地方（春日井市、小牧市、犬山市、江南市、岩倉市、一宮市など）の寺院に伝わる未調査の仏像を調査し、中央からの影響、尾張地方の特色、双方の視点から考察し、尾張地方の仏像の特色を解明することである。尾張地方は関西圏から近く、中央の文化が伝わりやすいことから、中央作に見劣りしない優れた仏像が多い。しかし一方で、中央作の仏像の様式を独自にアレンジした仏像や着脱式の技法の仏像なども見られた。また近世以降の像のうち、黄檗様の仏像が黄檗宗以外の寺院からもしばしば見つかるのは興味深い。尾張、三河、岐阜地方で黄檗様の仏像を製作する仏師がいたことが想像される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

愛知県の仏像といえは、かつて尾張国の国府が置かれた稲沢市の仏像は知られているが、それ以外の尾張地方の仏像はほとんど知られていない。そこで、尾張地方に伝わる未指定・未調査の仏像を対象に視察・調査を試みた。調査した仏像のうち約50体の像については調査報告書を作成している。今後、論文や報告書等の形で随時公開していく予定である。未調査の仏像を調査することは、つまり地域に眠る文化財を発見していくことでもある。地道な調査ではあったが、この5年間で調査した仏像のうち十数体は市の文化財指定につなげることができた。地域の文化財保護の点においていくらかの貢献はできたように思う。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to elucidate the characteristics of Buddhist statues in the Owari region by investigating unexamined Buddhist statues in temples in the Owari region of Aichi prefecture and considering them from the perspectives of (1) Influence from the center and (2) Characteristics of the Owari region. Since the Owari region is close to the cultural center of Kansai region and the culture is easily spread, there are many excellent Buddhist statues that are not inferior to the statues made in the cultural center. However, there were also Buddhist statues that were uniquely modified from the statue made in the cultural center, and statues made using removable techniques. It is also interesting that among the statues from the early modern period, Buddha statues in the Obaku style are often found in temples other than the Obaku sect. It is probable that there were creators of Buddhist statues in the Obaku style in each area of Owari, Mikawa, and Gifu.

研究分野：日本彫刻史

キーワード：尾張地方 仏像 定朝様 黄檗様 仏師 未指定 文化財

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

愛知県の仏像については、20年がかりで行ってきた仏像の調査結果が『愛知県史』文化財・彫刻編(愛知県史編さん委員会、2013年)として刊行された。それによって美術史研究者が広く愛知県の仏像を知ることが出来るようになった意義は大きい。しかし私自身が愛知県春日井市と小牧市の文化財保護審議会委員となり、両市に所在する寺院を視察で巡った際、近世以前に遡る古い時代の仏像を目にすることが少なくなかった。中には京の都で作られたかと思われるほど優れた仏像も見つかり、平安時代の在銘像までも発見された。その一方で、古くから地元で大切に守られてきたであろう地方仏も見出されたのである。しかもそれらの仏像がいずれも県史や市町村史等でまったく取り上げられていなかったことに衝撃を受けた。創建年代の比較的新しい寺院であっても、未指定・未調査の仏像を対象に、調査を実施する必要性を実感するに至ったのである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、愛知県の中でも尾張地方の寺院を取り上げ、未指定・未調査の仏像を調査したい。調査することによって、仏像の製作推定年代はもちろん、それらの像にみられる特徴(様式、構造等)を考察し、さらに銘文が見つかった際には文献史料等の解読も併せおこないつつ、尾張地方における仏像の特色を明らかにしたい。

愛知県は京の都からそれほど遠くはなく(距離にして100~150キロ)、古代より尾張国は「近国」に位置づけられていた。したがって、中央の仏師らが手がけた仏像が尾張地方に伝来していたとしても不思議ではない。尾張地方の仏像を考える場合には、仏師あるいは仏像そのものが中央から移動してきた可能性も考慮する必要がある。明治の神仏分離の際、関西圏から愛知県に移動してきた仏像の存在も知られている。つまり、尾張地方には中央の影響を色濃く受けた仏像が伝わる一方で、尾張地方の特色のある仏像も存在する。この中央と地方という双方の視点を持ちながら調査・分析を進めたい。

### 3. 研究の方法

尾張地方のなかで調査対象とするのは春日井市、小牧市、犬山市、江南市、岩倉市、一宮市であり、必要に応じてその近隣エリアの仏像も調査対象とした。すでに県史や市史等で調査された寺院の仏像は対象から外し、未調査の像に対して調査を実施した。

#### 【調査方法】アンケート調査+実地調査

まず、対象地域の寺院にアンケート調査を実施し、自治体等による調査の有無、未調査の仏像の有無、調査希望の有無等について訪ねた。その後、調査を希望する寺院を中心に訪問し、仏像調査を実施した。

#### 【分析方法】様式+構造による考察

調査は多くの場合、須弥壇等から移動させて実施した。調査は、法量測定のほか、形式、品質構造、保存状況等について考察した。基礎的データを積み上げ、整理・分類する。銘文が見つかった場合には、人名や地名等の情報を手がかりに、像の造立事情や背景を考察していく。調査後は報告書を作成し、寺院にお渡しする。近世以前の古い像である場合には、市の文化財担当の方に報告するとともに、美術史学にも寄与すべく、調査結果を論文・報告等で公開していく。

### 4. 研究成果

#### 〔2017年度〕

春日井市とその周辺地域の寺院に伝わる未調査の仏像を中心に視察・調査を実施した。調査したのは約15体の仏像で、そのうち、平安・鎌倉時代に遡る像も見出された。中央作の仏像に見劣りしない優れた像も見出されたが、その一方で、地方的とみられる特徴、たとえば定朝様の如来坐像において、衲衣が膝前正面で大きくU字形に垂れるのではなく、ごく浅い垂れ方となる点、同じく定朝様の如来坐像において、如来像でありながら衣の一部を脛の下にたくし込む点、寄木造りの木寄せを、着脱式とする等の特徴がみられた。

#### 〔2018年度〕

犬山市とその周辺地域の寺院に伝わる未調査の仏像を中心に視察・調査を実施した。調査した仏像は約20体である。その多くは室町時代から江戸時代の像であった。しかしながら、これらの像の調査をとおして、仏像の移動の問題も見えてきた。調査した仏像の中には、尾張地方の他寺院から移された仏像もあれば、近畿地方の他宗派の仏像が移されたケースもあった。意外にも

造立時に祀られた場所から移動した仏像が少なくなかった。調査した犬山・立圓寺の如来坐像（像高 63.5 cm）は、17 世紀の日本人仏師による黄檗様の如来坐像で、像内に金箔が施された見事な像であったが、この如来坐像も近畿地方の寺院から移動した像であった。

〔2019 年度〕

江南市・岩倉市とその周辺地域の寺院に伝わる未調査の仏像を中心に視察・調査を実施した。調査寺院の宗派は天台宗、浄土宗、浄土真宗、曹洞宗、臨済宗、黄檗宗などで、調査した仏像の種類も多岐にわたる。調査した尾張地方の仏像は約 40 体である。尾張地方と隣接する三河地方や岐阜の仏像も含めると、全部で約 75 体の像を調査した。なかには、平安時代の仏像も見出されたが、全体としては室町時代後期から江戸時代の像が多かった。調査した江戸時代の仏像の様式は実に様々で、平安時代に活躍した仏師・定朝（ - 1057 年没）の仏像に倣った定朝様の仏像のほか、鎌倉時代前期を代表する仏師・快慶（生没年不詳）の阿弥陀如来立像に倣った安阿弥様の像、江戸時代前期に日本に将来された中国明清の美術様式に倣った黄檗様の仏像、室町時代の院派の仏像様式を継承する仏像などがみられた。

以上のように、江戸時代の仏像の様式は、実に多様な様相を呈していた。美術史の分野ではこの期の仏像を研究する者は少ないが、実際に調査してみると、中世の仏像と見紛うような優れた仏像も見出されたのは意外であった。また技法についても、中世のそれとは異なることが多いものの、決して一様ではなかった。とくに黄檗宗以外の宗派の寺院の本尊が黄檗様である事例がいくつも見出されたのは興味深く、黄檗様の視点からも、尾張地域の中央と地方の問題を考えていく必要がある。

〔2020 年〕

一宮市とその周辺地域の寺院に伝わる仏像と、比較研究としてその近隣エリアの仏像の調査を実施した。調査した仏像は約 40 体である。調査した寺院は天台宗、浄土真宗、曹洞宗、黄檗宗の合計 10 カ寺で、平安時代から江戸時代までの幅広い時代の仏像を調査した。なかでも興味深かったのは、一宮市花池に所在する黄檗宗寺院、薬師寺の本尊・薬師如来坐像であった。すでに一宮市指定文化財となっている仏像ではあるが、像内に胎内仏を納めた像で、その納め方が大変ユニークであった。すなわち、像高 29.0 cm の本尊像の狭い像内に、像高 17.5 cm の薬師如来坐像が納められていたのである。あたかも本尊像より一回り小さい胎内仏を入れ子式に納めたようなものであった。薬師寺の創建の歴史とあわせて、いつこのような処置が行われたかについても考察を加えた。

他の黄檗寺院 2 ケ寺でも調査を実施したが、像内納入について興味深い知見が得られた。愛知県内の黄檗宗寺院の仏像についてはほとんど調査が実施されていない印象を受けるが、今後さらに調査していくと、尾張地方の黄檗の仏像の造立事情や仏師について見えてくるのではないかと期待される。

〔2021 年〕

2020 年度に引き続き、一宮市とその周辺寺院に伝わる仏像を中心に視察・調査を実施した。調査した尾張地方の仏像は約 28 体。尾張地方と隣接する三河地方や岐阜の仏像も含めると、全部で 48 体の像を調査した。未調査の仏像を中心に調査しているので、近世以降の像が多かったのであるが、平安時代から南北朝時代頃までの幅広い時代の仏像 6 体が見出された。このうち 2 体は市指定文化財とする方向で動いている。また、製作年代が中世に遡る仏像のうち 2 体の像に、足柄を設けずに、像底に円柱形の柄を立てた事例を見かけた。古い足柄の痕跡がなく、造立当初から円柱形の柄であった可能性が捨てきれなかった。こうした処置は仏像の大きさや他の理由によるのか、あるいは地方的な処置であるのかは現時点では不明である。今後さらに検討していきたい。

2021 年度は、2017 年度より行ってきた尾張地方の仏像調査研究の最終年度に当たる。この 5 年間で様々な宗派の、様々な時代の仏像を、中央と地方という二つの視点から調査・研究してきた。尾張地方の仏像には当初想定していた以上に多様な特色があることが見えてきた。また、毎年必ず近世以前の古い仏像を発見できたのは幸いであった。調査した仏像については調査報告書を作成し、寺院の方にお渡ししてきた。また調査した仏像のうち中世にさかのぼる像であった場合には、市町村の文化財担当の方にも併せて調査報告を行った。未調査・未指定の仏像を対象とした調査であるため、必ずしも成果に結びつくとは限らない。しかし、地域に眠る文化財を発見していくには、こうした地道な調査が欠かせないと考える。この 5 年間で調査した仏像のうち、十数体の像を各自治体の文化財指定につなげることができた。本研究を通して、自治体の文化財担当の方と連絡を取り合うことも多くなり、また寺院の方から仏像の指定や修復等について相談を受ける機会も増えた。あらためて本研究は地域の文化財保護活動ともつながっていたことを実感する。以上、5 年間で約 50 体程度の仏像調査報告書を作成した。今後、所有者の許可が得られた仏像については、美術史研究に資するべく、何らかの形で公開していきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小野佳代	4. 巻 6
2. 論文標題 2020年度・尾張地方の仏像調査報告 一宮・薬師寺の本尊薬師如来坐像と胎内仏の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『共生文化研究』	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野佳代	4. 巻 5
2. 論文標題 2019年度・尾張地方の仏像調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『共生文化研究』	6. 最初と最後の頁 63-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野佳代	4. 巻 4
2. 論文標題 2018年度・尾張地方の仏像調査報告 - 犬山・立圃寺の黄檗様如来坐像の紹介 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『共生文化研究』	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本勉・小野佳代	4. 巻 第667号
2. 論文標題 愛知県春日井市・退休寺の久安二年銘阿弥陀如来坐像	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『MUSEUM』	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野佳代	4. 巻 第17号
2. 論文標題 尾張国の仏像にみる中央と地方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『東海学園 言語・文学・文化』	6. 最初と最後の頁 54-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野佳代	4. 巻 第3号
2. 論文標題 尾張国の仏像にみる中央と地方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『共生文化研究』	6. 最初と最後の頁 117-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野佳代	4. 巻 第76号
2. 論文標題 退休寺の久安二年銘阿弥陀如来坐像	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『郷土誌かすがい』	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

#### 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------